

インドネシアの美術教育における 学習指導要領の位置づけについて

福田 隆真*・佐々木 幸**

A Study on the Course of Study of Arts and Crafts Education in Indonesia

Takamasa FUKUDA* and Tsukasa SASAKI**

(Received November 29, 1996)

キーワード：インドネシア 美術教育 学習指導要領

はじめに

- 1 小学校美術教育学習指導要領について
- 2 中学校美術教育学習指導要領について
- 3 学習指導要領と実践

はじめに

インドネシア共和国（以下、インドネシア）は、アジアとオーストラリアの2大陸間及びインド洋と太平洋の2大洋に位置し、西はスマトラ島から東はイリアン・ジャヤに至る東西約5,100kmの世界最大の群島国家である。豊富な資源に恵まれて、かつては「オランダ女王の首飾り」と称された東南アジアでも有数の天然資源を有する国である。国土は日本の約5.5倍の192万平方kmで、13,667の島からなっている。人口は約1億8,000人を擁し、約300の民族と言語を有する多文化国家である。宗教に関してはイスラム教が全人口の約90%を占め、他にキリスト教、ヒンドゥー教、仏教となっている。それぞれの民族は独自の伝統文化を有し、パンチャシラに代表されるように、「多様性の中の統一」を理念としながら国家を形成してきている。

本稿はそうしたインドネシアの多様性の中の統一の一つの例として、教育における学習指導要領について美術教育の分野から、その実際を報告するものである。⁽¹⁾ 1では現行の小学校の学習指導要領、2では中学校の学習指導要領において美術教育の内容に関連するものを列記し、3において学習指導要領と美術教育の実践での関連を調査をもとに述べる。

1 小学校美術教育学習指導要領について

現行の小学校の学習指導要領は1993年に改訂され、1996年に導入されて今日に至って

* 山口大学教育学部 ** 北海道教育大学教育学部釧路校

る。⁽²⁾今日までに、小学校の学習指導要領は、1947年、1964年、1968年、1975年、1986年にそれぞれ改訂がなされている。⁽³⁾美術教育に関する内容は教科としては「手工芸と芸術」の科目に含まれている。以下はその内容である。

この学習指導要領の内容構成は教科の定義、機能、目的、領域、方法、授業計画からなっており、定義、機能、目的、領域、方法については1学年から6学年まで同様に、次のようになっている。

定義：(1～6学年)

手工芸と芸術科目は手を使ってものを作ることについて学習し、美的感覚を養うものである。手工芸と芸術のプログラム内容は生徒の精神を発達させる日常生活から切り離すことができないものである。この教育内容は当該地域社会および地域の文化における手工芸と芸術分野の発展に注意を促す国家的なものである。

機能：(1～6学年)

手工芸と芸術科目は創造的な態度や能力(基礎的な技能)を育成し、情操を豊かにするという機能を持つ。

目的：(1～6学年)

手工芸と芸術科目は、生徒が創造したり、手工芸や芸術を尊重したりするような態度や能力を育成することを目的とする。

領域：(1～6学年)

手工芸と芸術科目の内容は以下の教材を含む。

1. 遊ぶもの、飾るもの、使うもの、料理の仕方
2. 絵、版画、構成
3. 音楽の要素と創造性を育むもの
4. 踊り、拍子、感情

方法：(1～6学年)

1. 手工芸と芸術科目の内容は統一性をもって行う。
2. 手工芸と芸術科目の学習は理論と実践を切り離してはならないという基本的性質をもつ。
3. 小学校での音楽は、基本的には楽譜を使って教えるが、楽譜が読めない、あるいは、無い場合には数字を使ってもよい。
4. 音楽教育で用いられる歌は、国歌／義務唱歌、当該地域の歌、他の地域の歌である。これらの歌は発達段階に合わせて選ばれる。
5. 準備された教材および施設は、できる限りうまく使用する。特に教育施設が不十分な場合は、地域社会にある教材や道具を借りられるようにする。
6. 手工芸と芸術科目の評価は、学習成果と学習プロセスで行い、今後の能力を発展させるた

めの基盤とする。

7. 創造力の側面では、用いられる教材と教育形態の自由を最優先して、創作活動を行う。

以上が小学校での共通する方法である。その他に各学年で必要とされる用語の解説がしてある。以下に、美術教育に関する用語を記する。

1 学年：表現のための絵、柔らかい造形材料

2 学年：飾るもの、コラージュ、モンタージュ、モザイク、版画、レリーフ

3 学年：お話しの絵、基礎的な編み物、組み合わせの編み物、シルクスクリーン印刷、タンポン、想像、インクプロット技法⁽⁴⁾

4 学年：オーナメント、ロンチェ⁽⁵⁾、モザイク、ブツィール⁽⁶⁾、モチーフ

5 学年：マクラメ、使うもの、レリーフ、ブツィール、小道具⁽⁷⁾

6 学年：美術教育関係の項目はない。

次に、各学年において、学期ごとに授業計画が示され、具体的な教育内容が述べられている。以下では、美術教育に関する内容を学年ごとに記する。

● 1 学年

目的：

1. 生徒は、表現のために形を作ったり、描いたりすることができる。
2. 3. (音楽関係、略)

◎ 1 学期 (24時間)

1 生徒は、紙を折って形を作ったり、表現するために絵を描くことができる。

1. 1 折り紙

- ・自由に折って色々な形を作る。
- ・長方形、三角形、円の形を紙で折る。
- ・正方形と長方形を紙で折って作る。
- ・色々な形の紙を組み合わせる。

1. 2 表現のための絵

- ・家族、家、学校などの環境で直接経験することを、学校で普通に使う材料で絵に表す。

2 音楽関係の内容 (略)

◎ 2 学期 (24時間)

1 生徒は、紙を切りとって形を作ったり、表現するために絵を描くことができる。

1. 1 直線や曲線を切りとる。

- ・直線を切りとる。
- ・曲線を切りとる。例として、円や楕円。
- ・切りとったものを貼る。

1.2 表現のための絵

- 普通の材料（自然材あるいは人工材）で、基礎的な表現のための絵を描く。例えば、自分の経験、他人の経験、伝説や空想の絵等。

2 音楽関係の内容（略）

◎3学期（20時間）

- 1 生徒は、絵を描いたり、色をつけたり、コラージュの技法や柔らかい材料で遊ぶものを作ることができる。

1.1 コラージュ

- 切りとった色紙を張り合わせて、色をつけて絵を描く。例えば、子供が興味を持つ形の絵や風景の絵。

1.2 自由に形を作る。

- 自然の材料（粘土）、人工の材料（ろうそく）などのような柔らかい材料を使って、自由に形を作る。

2 音楽関係の内容（略）

●2学年

目的：

1. 生徒は、飾るもの、遊ぶもの、絵を色々な技法で作ることができる。
2. 3. 音楽関係の内容（略）

◎1学期（24時間）

1. 生徒は、コラージュの技法とそれらを複合した技法で絵を表現することができる。

1.1 コラージュ

- 乾燥した葉や木のかんなくずのような自然の材料、あるいは簡単に貼りつけることができる材料で、貼る技法によって、見たことのある動物や遊ぶものをテーマをもって絵に表現することができる。

1.2 絵の表現

- 表現の絵
- 手ごろなロウのような材料や色を溶かしたものなどを使って、次のような絵を表現する。動物の物語、子供達の間で伝わっている物語や伝説になっている物語。

2. 音楽関係の内容（略）

◎2学期（24時間）

1. 生徒は、遊ぶものを作ったり、カレンダー、新聞紙、雑誌の残りをを使って、役に立つ絵をモンタージュの技法によって作ることができる。

1.1 遊ぶもの（おもちゃ）

- 折り曲げる技法で遊ぶものの形を作る。（例：鳥、船、帽子、舟、飛行機、蛙）

1.2 モンタージュ

- ・モンタージュの技法により、次のような絵を描く。休日に経験したことや学校の近くで観察したこと。

2. 音楽関係の内容（略）

◎3学期（20時間）

1. 生徒は、モザイクの技法と版画の技法で絵を作ることができる。

1.1 モザイク

- ・小さな色片を工夫する方法で、飾るための絵や役に立つ絵を作る。

1.2 凸版（レリーフ）

- ・凸版の技法で、子供にとって印象の深いテーマによって、次のような例を含んだ絵を作る。自然のレリーフ（葉っぱ）、切ったものでの版画（バナナの葉の軸、色々な野菜）、彫ったものの版画（彫ったもの、木の盆、芋類）

2. 音楽関係の内容（略）

●3学年

目的：

1. 生徒は、装飾のための編み物とテーマを持った絵を作ることができる。
2. 音楽関係の内容（略）

◎1学期（24時間）

1. 生徒は、基礎的な編み物の技法で、飾るものを作り、説明的な絵を描くことができる。

1.1 基礎的な編み物

- ・基礎的な編み物の技法と編み物のような幅の広いリボンの材料を使って飾るものを作る。色を同じにしないで、例に示すような材料で作る。自然の材料（葉っぱ、あるいは同種類の草）、人工の材料（紙あるいはビニルのリボン）。

1.2 説明の絵

- ・基礎的な説明の絵を描く。：記憶あるいは空想、そして直接的な経験によるもの。

2. 音楽関係の内容（略）

◎2学期（24時間）

1. 生徒は、基礎的な編み物の技法を使って、飾るものを作ることができる。そして、意識的に作る形の要素を揃えることによって、絵を描くことができる。（足りないところがないようにする。）

1.1 基礎的な編み物

- ・基礎的な編み物の技法と幅や色が決められたリボンによって、飾るものを作る。それらは自然の材料（竹や木の薄いもの、竹、葉、椰子の木あるいはパンダン）、人工の材料（マニラ紙あるいはビニル）から、例と同じでないものを作る。

1.2 イメージの絵

- ・形の要素を補うことで、具象の絵を描く。(抽象ではない。) インクプロット法あるいは糸を引く技法で形の要素を使って描く。

2. 音楽関係の内容(略)

◎3学期(20時間)

1. 生徒は、組み合わせた編み物の技法を使って、飾るものを作ることができる。そして、シルクスクリーン印刷によって作品を作ることができる。

1.1 組み合わせの編み物

- ・同じ幅の編まれたものやいろいろな編み方の色のリボンを用いて、組み合わせの編み物で飾るものを作る。

1.2 シルクスクリーン

- ・絵の具をはじいたり、タンポンの技法により、シルクスクリーンのプロセスを利用して作品を作る。

2. 音楽関係の内容(略)

●4学年

目的:

1. 生徒は、様々な飾るものと遊ぶものを作ることができ、さらにオーナメントを描くことができる。(以下、音楽関係、略)

◎1学期(24時間)

1. 生徒は、ロンチャンの技法で飾るものを作ることができる。また、はさみで切って折る技法で遊ぶものを作ることができる。

1.1 ロンチャンの形

- ・使うものを飾るためにロンチャンを作る。例えば、乾いた種でカーテン(のれん)を作ったり、数珠でネックレスを作ったり、色紙で部屋を飾るものなど。

1.2 建物と構成

- ・グループ制作の方法を計画して、住宅団地の模型で遊ぶものを作る。すなわち、切って折る技法で家の形を作り、まとめて配置し、「住宅団地」を作る。

2. 音楽関係の内容(略)

◎2学期(24時間)

1. 生徒は、いろいろな種類の材料を束ねて構成したり、オーナメントを描くことができる。

1.1 束ねて構成する

- ・いろいろな材料を束ねて芸術的に構成する。例えば、葉、軸、花を束ねる。木の実を束ねる。組み合わせたものを束ねる。

1.2 オーナメントを描く

- 絵と版画、絵あるいは版画のように新しいモチーフと技法を生徒に発見させる可能性を引き出すために、生徒の興味のあるオーナメントを使って飾るものを作る。

2. 音楽関係の内容（略）

◎3学期（20時間）

1. 生徒は、貼る技法で作ったものを飾ったり、モデル（型）を作ることができる。

1.1 飾るもの

- 紙、布、貝殻、タイルのかけら、あるいはその他の使いそうな材料で、モザイクの技法で飾るものを作る。

1.2 モデル（型）

- 遊ぶものあるいは使うものを、いろいろな形の造形物で飾ることを発展させる。すなわち、ブツィール技法（材料は粘土、紙粘土）あるいは彫りの技法（材料は乾いたものあるいは石鹼）を用いる。

●5学年

目的：

1. 生徒は、飾るものを作ったり、形を描いたり、料理ができる。

2. 音楽関係の内容（略）

◎1学期（24時間）

1. 生徒は、マクラメの技法や文字のデザインによって、飾るものや使うものを作ることができる。

1.1 マクラメ

- いろいろな種類の材料で、巻いたりよったりする。例えば、糸、紐、蔓、ランプの芯等。
- 飾るものや使うものをマクラメの技法で作る。例えば、掛け飾り、プレスレット、ネックレス、ベルト等。

1.2 文字を描く

- 標準的な文字を描く。（例えば、自分の名前、学校の雑誌のデザイン。）

2. 音楽関係の内容（略）

◎2学期（24時間）

1. 生徒は、主食を料理したり、レリーフを作ったりできる。

1.1 主食

- その地方の主食の材料で料理する。
- 他の地方の主食の材料で料理する。

1.2 レリーフ

- 学校の生活をテーマとしたレリーフを作る。例えば、ブツィール（粘土）や彫刻等（半分

硬い材料)の技法で作る。

2. 音楽関係の内容(略)

◎3学期(20時間)

1. 生徒はいろいろな野菜で料理したり、図形を描くことができる。

1.1 いろいろな野菜(略)

1.2 図形を描く

・子供が自分でモデルを選んで絵を描く。例えば、一つのもの、集まったもの。

2. 音楽関係の内容(略)

●6学年

目的:

1. 生徒は、家庭で布を使った作品を作り、飾ることができる。また、図形を描くことができる。

2. 音楽、舞踊関係の内容(略)

3. 生徒は、手工芸と芸術の発表会を実現することができる。

◎1学期(24時間)

1. 生徒は、刺す技法で布を装飾することができる。また、図形を描くことができる。

1.1 家庭科教育の内容(略)

1.2 教師が選んだモデルを基礎として図形を描くことができる。(例:単一のモデル、2つあるいはそれ以上の芸術的に積み重ねられたモデル。)

◎2学期(24時間)

家庭科教育、音楽教育の内容(略)

◎3学期(20時間)

1. 生徒は、発表会をすることができる。

1 発表会

・発表会を計画することができる。

・発表会を準備することができる。

・発表会を実現することができる。

2 中学校美術教育学習指導要領について

中学校の学習指導要領も1993年に改訂され、美術教育の内容は「手工芸と芸術」の科目に含まれている。内容の構成は小学校のものと同様で、定義、機能、目的、領域、方法、授業計画からなっている。理念的な内容は共通しており、授業計画は各学年ごとに明記してある。その内容は以下である。⁽⁸⁾

定義：

手工芸と芸術科目は手を使ってものを作ることについて学習し、美的感覚を養うものである。手工芸と芸術のプログラム内容は生徒の精神を発達させる日常生活から切り離すことができないものである。この教育内容は当該地域社会および地域の文化における手工芸と芸術分野の発展に注意を促す国家的なものである。

機能：

手工芸と芸術科目は創造的な態度や能力（基礎的な技能）を育成し、情操を豊かにするという機能を持つ。

目的：

手工芸と芸術科目は、生徒が創造したり、手工芸や芸術を尊重したりするような態度や能力を育成することを目的とする。

領域：

手工芸と芸術科目の内容は次のようである。

1. 装飾品、衣料品、食品加工および料理の仕方
2. 絵画、版画、構成
3. 音楽的要素への感受性と創造性
4. 舞踊、リズム、感情

方法：

1. 手工芸と芸術科目の内容は統一性をもって行う。
2. 手工芸と芸術科目の学習は理論と実践を切り離してはならないという基本的性質をもつ。
3. 中学校における音楽教育はバロック調を用いる。
4. 音楽教育で用いられる歌は、国歌／義務唱歌、当該地域の歌、他の地域の歌である。これらの歌は発達段階に合わせて、童謡から選ぶ。
5. 準備された教材および施設は、できる限りうまく使用する。特に教育施設が不十分な場合は、地域社会にある教材や道具を借りられるようにする。
6. 手工芸と芸術科目の評価は、学習成果と学習プロセスで行い、今後の能力を発展させるための基盤とする。
7. 創造力の側面では、用いられる教材と教育形態の自由を最優先して、創作活動を行う。

授業計画

● 1 学年

目的：

- 1 生徒は、衣服、絵画、テーマをもつ絵を作成したり、衣服を繕ったりする能力を持つようにする。

- 2 生徒は、音声学的なテクニックを用いて歌を歌ったり、バロック調音階を用いたり、一人、ペア、集団の形態をとる踊りをする能力を持つようにする。

◎1学期(24時間)

1. 生徒は、自分で服を繕ったり、絵を作成することができるようにする。
 - 1.1 衣服の修繕。
 - ・繕いと補正
 - ・小さな綻びをなおす。(例：ボタンがとれた時、縁が開いた時)
 - 1.2 絵画
 - ・絵の対象を選ぶ。
 - ・見本をもとに絵を描く。
2. 音楽関係の内容(略)

◎2学期(24時間)

1. 生徒は、色々な種類の布を縫う技術を用いて裁縫することができ、感情を絵に表すことができるようにする。
 - 1.1 日用品
 - ・縫おうとする服の型紙を作る。
 - ・裁縫技術を用いて日用品を作る。(例：バッグ、靴入れ、新聞入れ、ブックカバー)
 - 1.2 感情を絵に表す。
 - ・感情を絵に表したり、表面の諸要素を用いる可能性を見いだす。(線を引く技術、媒介物)
2. 音楽関係の内容(略)

◎3学期(20時間)

1. 生徒は、柔らかい材料で日用品を作ることができ、イラストを描くことができるようにする。
 - 1.1 柔らかい材料から作る日用品。
 - ・柔らかい材料で日用品を作る。(例：粘土、石鹸、ろうそく)
 - 1.2 イラスト
 - ・手にはいるあらゆるものや技術を用いて、経験したことを直接、もしくは思い出をイラストにする。
2. 音楽関係の内容(略)

●2学年

目的

1. 生徒は、日用品、装飾品、彫刻、広告用のパースの絵を描いたり、料理したり、それを盛りつけたりすることができるようにする。
2. 生徒は、アンサンブルができるようにしたり、テーマ、ストーリー、会話のある踊りがで

きるようにする。

◎1学期（24時間）

1. 生徒は、硬いもので日用品を作ったり、広告用の絵を描けるようにする。

1.1 日用品

・家で使うことができる日用品を硬い材料を使って作る。（例：椰子の殻からボタン、竹から花瓶、木からまな板）

1.2 広告用の絵

・簡単な文字や形を選んで広告用の絵を描く。

2. 音楽関係の内容（略）

◎2学期（24時間）

1. 生徒は、様々な技術を用いて装飾品を作ったり、線で絵を描いたりすることができるようにする。

1.1 装飾品

・様々な技術を用いて装飾品を作る。（例：編んだり、鋸を引いたり、切ったり）

1.2 パース

・一点透視を用いて線でパースを描く。

・二点透視を用いて線でパースを描く。

2. 音楽関係の内容（略）

◎3学期（20時間）

1. 生徒は、日々の食事を料理したり、その盛りつけをしたり、彫刻を彫ることができるようにする。

1.1 料理

・バランスのとれたメニュー作り。

・日々の食事を料理する。（例：主菜、おやつ、副菜）

1.2 盛りつけ

・道具、食器に合わせて盛りつけをする。（例：汁ものとそうでないもの）

・盛りつけの形に合わせて料理を盛りつける。（例：床に盛りつけるとき、テーブルのとき、バイキング方式）

1.3 彫刻

・柔らかい材料で特徴のあるテーマをもつ彫刻を彫る。（例：粘土、石鹼、ろうそく）

2. 音楽関係の内容（略）

●3学年

目的

1. 生徒は、発表会を計画できるようにする。

2. 生徒は、発表会を準備することができるようにする。
3. 生徒は、手工芸の作品や芸術を発表できるようにする。

◎1学期（24時間）

1. 生徒は、手工芸の作品や芸術を発表する計画を立てられるようにする。
 - 1.1 計画
 - ・発表会のテーマを決める。
 - ・活動の計画を立てる。
 - ・発表会のプログラムを作る。
 - ・発表会場を決める。
 - 1.2 組織
 - ・委員会を編成する。
 - ・仕事とタイムテーブルを作る。
2. 生徒は、制作し、手工芸と芸術の鑑賞ができるようにする。
 - 2.1 手工芸と芸術の作品
 - ・つくろうとする作品の種類を決める。
 - ・使う材料や道具を決める。
 - ・デザインを決める。
 - ・作品を制作したり、練習したりする。
 - 2.2 手工芸と芸術の鑑賞
 - ・作品を批評する。
 - ・作品を選んだり、分類する。

◎2学期（24時間）

1. 生徒は、発表会を準備できるようにする。
 - 1.1 発表会の準備
 - ・作品を集める。
 - ・発表会の成功に努める。
 - ・それぞれ自分の仕事を続ける。

◎3学期（16時間）

1. 生徒は、発表会を実施できるようにする。
 - 1.1 発表会
 - ・発表会の組織化をはかる。
 - ・発表会場をよりよくなる。
 - ・発表会について批評する。

3 学習指導要領と実践

前章までに小学校と中学校の美術教育容に関わる学習指導要領の内容を記した。学習指導要領はあくまでも全国的なレベルでの教育課程の指針である。美術教育に関しては、現行の学習指導要領では、前述のように「手工芸と芸術」という科目に含まれており、美術、工芸、音楽、舞踊、家庭科が統合された教科の一部になっている。それは教科の内容によって統合されているのではなく、実質的にはそれぞれの内容が独立しているのである。従って、美術教育に関してはわが国のように週あたり2時間の授業時間ではなく、実質的にはその3分の1ないしは4分の1程度の時間数である。

美術教育の教育内容については、インドネシアが多民族、多文化国家であるために、教材の設定には困難な側面を持っている。教育文化省初等教育局のセディオノ（Sediono）も中等教育局のラミジョー（Ramidjo）もその点に関して次のように述べている。「複合社会のインドネシアにとっては、美術の教材を統一することは非常に難しい。様々な伝統と文化を持つ多民族国家であるから、価値観や宗教の問題があり、教育課程ではそれらに共通する内容を示すことしかできない。作品の評価も地域によって違っているので、教材に対する選定の基準もなかなか決めることができない状況にある」。⁽⁹⁾つまり学習指導要領は多文化国家において、民族、伝統文化、宗教に関与しない程度のミニマムエッセシャルとして機能するしかないであろう。

教材の選定に関しては、教科書との関連が考えられるが、現在のところ全国的な教科書は美術教育に関して刊行されていない状況にある。しかし、実際には書店において小学校の美術の教科書は販売されている。⁽¹⁰⁾それらは州単位の地方組織による教科書であり、しかも一部の組織で行われているものに過ぎず、教育文化省としては、「あくまでもローカル・カリキュラムであり、ナショナル・カリキュラムではない」⁽¹¹⁾と指摘している。そして、将来的には教育課程に合致した全国的な教科書の作成を望んでいる。

教科書の使用に関しては、地域や学校あるいは個人の経済的状況によって左右されている。例えば、ジャカルタのような都市部における学校では、児童・生徒の経済的状況も比較的良好で、教育に対する親の期待感も強く、教育費の出費を当然のこととして考え、教科書・教材の購入を行っている。筆者が調査した、公立の小・中学校においてもほとんどの児童・生徒が美術の教科書を使用していた。その一つである教育文化省実験小学校中央ジャカルタ、テガル10通り小学校では、⁽¹²⁾「手工芸と芸術」科目において、伝統的舞踊、地域の楽器を使用した伝統的音楽、家庭科と美術科の複合教材である刺繍などを学習指導要領に準拠して教育を行っている。基本的にカリキュラムは一般校と同じである。ただ、ジャカルタの地域カリキュラムの特徴として、英語教育の導入が実施されている。

また、同じジャカルタの古くからの公立中学校である第12中学校では、⁽¹³⁾「手工芸と芸術」科目において地域の料理を教材としたり、手芸なども採り上げている。全般的に学習指導要領に準拠する教育内容を設定している。美術教室も設置されており、教育環境は比較的整備されていると思われる。

中学校においては、教科別に教育がなされるので、教師の個人的資質や熱意も授業内容に反映している。バンドンの公立第12中学校では、そういった意味では、教師の個人的な努力によっ

て、美術教育がなされているともいえる。ここでは、美術教師のアリン・クルニアシィ (Alin Kurniasih) が自ら教科書の作成をおこない、地域の美術教育研究会や展覧会活動のリーダーとして活躍している。⁽¹⁴⁾ 彼女は「美術教育の基礎は、美を愛好し、美術に興味を持たせ、表現技術を習得することにある」と述べ、美術教育の理念的必要性を認識しているが、別の側面からすると、「美術教育では生徒の創造力を高めると同時に、技術の習得を行って、生徒が中学校を何らかの事情で中途退学を余儀なくされる状況においても社会にでて就職することができるようにしてやりたい」と、現実の教育に対する厳しい状況への対処も考慮している。⁽¹⁵⁾ 彼女の美術教育での実践は教育課程に準拠しながら、自ら教科書を作成し、⁽¹⁶⁾ そこに採り上げられている教材も地域の特性を考慮したものでなされている。自作の教科書の使用については市販されている地域カリキュラムの教科書が購入できない生徒が多いために、経済的負担を少なくするという理由と、授業を担当している教師の意図が反映しやすいという理由が考えられる。実際には、教育課程に準拠していれば、その運用は自由度を持っているのが現状である。この自作の教科書においても、ほとんど学習指導要領の内容を包括し、加えて地域性のある教材や用具・道具の解説といった参考書的内容も含み、地域や生徒の実情に適した教材を採り上げている。また、学習指導要領の内容の一つである発表会の実施においても、この中学校では一つの教材が終了するごとに校内の展覧会を企画・実施し、学期ごとに地域の展覧会を行っている。美術教育の教材には手工芸が重視され、使用目的、装飾目的を持ったものが取り上げられている。こうした展覧会は作品の販売という目的も含まれていて、第12中学校ではその売上げを設備、教材等の教育環境の整備に充当している。

こうした小・中学校の美術教育の教員養成は、現在のところ教育大学、教育学部、教員養成単科大学で行われている。教育大学はイキップ (IKIP: Institut Keguruan dan Ilmu Pendidikan) と称され、ジャカルタ、バンドン、スラマン、ジョクジャカルタ、スラバヤ、マラン、メダン、パダン、マナド、ウジュンパンダンの計10大学がある。また、教育学部はフキップ (FKIP: Fakultas Keguruan dan Ilmu Pendidikan) と称され、ジャワ2校、スマトラ6校、カリマントラン4校、スラウェシ2校、その他東部インドネシア4校に計18学部がある。さらに、教員養成単科大学はスティキップ (STKIP: Sekolah Tinggi Keguruan dan Ilmu Pendidikan) と称され、北スラウェシ (ゴロンタロ)、バリ (シンガラジャ) の2校である。教員の多くは教育大学で養成されているが、美術教育に関しては専門学校、専門大学の卒業者も一部見られる。教育大学での美術教育学科は言語・芸術教育学部に属している。近年、教育大学も改革が行われ、総合大学に移管するところもある。⁽¹⁷⁾

筆者が調査したバンドン教育大学の美術教育においては、教員7名が所属し、デザイン、構成、イラストレーション、工芸、彫刻、絵画、美術教育理論、美術史、美術理論の内容を教授しており、それらの内容が美術教育の教員養成にすべて収斂したカリキュラムを採用している。⁽¹⁸⁾ 実際に、美術の内容を担当している教員は全てが美術教育に関わっており、単なる実技の教授に留まってはいない。美術教育の学科長であるオーホ・ガルハ (Oho Garha) は美術教育理論を担当し、全国的な教育課程に則った教科書の出版にも携わっている。⁽¹⁹⁾ また、ジョクジャカルタ教育大学においても同様なカリキュラムによって美術教育の教員養成を行っている。⁽²⁰⁾

教育課程や学習指導要領はわが国のような平均化した社会では有効に機能しているが、複合的社会であり、発展途上にあるインドネシアのような国においては、指針となっているものである。従って、小・中学校の教育実践に携わるものから、教員養成を行っている教育大学に至るものまでが、教育課程に準拠しながら、地域や伝統文化を考慮した教育内容を設定する必要がある。新しい教育課程は1996年度に全ての学年に導入されているが、この教育課程は特に読み書き算数の基本的能力を重視しているため、⁽²¹⁾芸術教育の充実を図るには授業時間が不十分である。今後、美術教育では社会との関連において、手工芸から軽工業、重工業に関係するデザインや情報処理関連のデザインなどの出現が予想され、それらに対応した教育内容の検討も必要となるであろう。同時に、経済的發展に伴って、教養教育としての美術教育の役割も必要となると考えられる。

注

- 1 本稿は、平成7年度8年度文部省科学研究費補助金国際学術研究（学術調査）「シンガポール、インドネシアにおける美術・工芸教育の調査及びカリキュラム研究」（課題番号07041061）による報告の一部である。研究代表者：福田隆眞（山口大学教育学部教授）、研究分担者：小平征雄（北海道教育大学教育学部函館校教授）、佐々木幸（北海道教育大学教育学部釧路校助教授）。
- 2 小学校の現行の学習指導要領については、インドネシア教育文化省初等教育局のSediono氏より、以下の資料を寄贈していただいた。
DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN DIREKTORAT JENDERAL PENDIDIKAN DASAR MENENGAH, KURIKULUM PENDIDIKAN DESAR, GARIS-GARIS BESAR PROGRAM PENGAJARAN KELAS I – VI, SEKOLAH DASAR(SD) 1993, 1994
- 3 小学校の学習指導要領の変遷に関しては、中矢礼美、「インドネシアにおけるMuatan Lokalに関する研究」、広島大学大学院教育学研究科教育行政学修士論文、1995、を参考にした。
- 4 画面に異なった色で斑点をつける技法。DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN, KURIKULUMPENDIDIKANDESAR,GARIS-GARISBESARPROGRAMPENGAJARAN, KELAS III SEKOLAH DASAR(SD), p.131, 1994
- 5 穴があいている材料や、あるいは意図的に穴をあけた材料を束ねて組み合わせ、のれんのような装飾品を作る。DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN, KURIKULUM PENDIDIKAN DESAR, GARIS-GARIS BESAR PROGRAM PENGAJARAN, KELAS IV SEKOLAH DASAR(SD), p.133, 1993
- 6 オランダ語のboetseren からきたもので、レリーフや胸像などの作品を柔らかい材料で作る技法である。材料を少しづつ加えていく技法。前掲書5
- 7 舞踊のための道具で、例えば、傘、刀、盾、肩掛け等。DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN, KURIKULUM PENDIDIKAN DESAR, GARIS-GARIS BESAR PROGRAM PENGAJARAN, KELAS V SEKOLAH DASAR(SD), p.165, 1994

8 中学校の学習指導要領については、教育文化省中等教育局のRamidjo氏より、教育課程全般に関する資料の提供をいただいた。美術教育に関する学習指導要領は、バンドン第12中学校美術教師、Alin Kurniasihから提供された以下の資料をもとにした。

DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN DIREKTORAT JENDERAL PENDIDIKAN DASAR MENENGAH, KURIKULUM PENDIDIKAN DESAR, GARIS-GARIS BESAR PROGRAM PENGAJARAN SEKOLAH LANJUTAN TINGKAT PERTAMA (SLTP), MATA PELAJARAN: KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN, 1993 なお、これらの資料のうち、中学校美術科に関するものは広島大学大学院教育学研究科博士課程、中矢礼美の協力を得た。

9 1995年8月および1996年8月の調査による。

10 例えば、Drs.A.Hamid,M.Ed. KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN 1 - 6 Yudhistira 1996, Dedi Nurhadiat, KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN 1 - 6, Gramedia, 1996, Rasjoyo, PENDIDIKAN SENI RUPA DAN KERAJINAN TANGAN KESENIAN 1 - 6, PENERBIT ERLANGGA, 1996 などが出版されている。

11 教育文化省のSedionoによる見解であり、1996年8月の調査によるものである。

12 正式な学校名は、DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN SD NEGERI PERCOBAAN JL. TEGAL 10 JAKARTA PUSAT である。教育文化省の実験校、研究指定校のひとつである。1996年8月10日に訪問・調査を行った。

13 SMP(Sekolah Menengah Pertama)12. ジャカルタで最も古い中学校で38クラスを擁する大規模中学校の一つである。1996年8月10日に訪問・調査を行った。

14 SMP Negeri 12 Bandung. 1996年8月14日の訪問・調査による。

15 近年の中学校への進学率は1989年のデータでは、56.6%となっているが、その後、中学校の義務教育化が図られている。しかし、現状では経済的事情により中途退学が多い。ジャカルタ・ジャパン・クラブ 「インドネシア・ハンドブック 1994年版」 1994 p.35 及び、1996年8月14日のAlin Kurniasihの面談・調査による。

16 ALIN KURNIASIH, PENDIDIKAN SENI RUPA UNTUK SMP, DITERBITKAN UNYUKU LINGKUNGAN SENDIRI BANDUNG, 1994

17 教育大学は6つの学部をもち、教育学部、言語・芸術教育学部、数学・理科教育学部、社会科教育学部、技術・農業教育学部、体育・健康教育学部からなっている。近年の卒業生の教員への就職率の低下と、社会の要請の変化により、改革が行われており、例えば、バンドン教育大学は教育大学としての充実を図るが、ジョクジャカルタ教育大学では州立の総合大学としての組織改革を行っている。1996年8月12日、バンドン教育大学第4副学長FUAD ABDUL HAMIED 及び8月16日のジョクジャカルタ教育大学数学・理科教育学部長Drs. Suhardi との面談・調査による。

18 1996年8月13日のバンドン教育大学美術学科教員との面談・調査による。また、次の資料による。DEPARTEMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN INSTITUT KEGURUAN DAN ILMU PENDIDIKAN BANDUNG, KURIKULUM IKIP BANDUNG 1993. pp.127-164

- 19 OHO GARHA, PEDIDIKAN SENI senirupa 1 - 6, ANGKASA 1989
- 20 ジョクジャカルタ教育大学美術教育学科教官ハジャー・パマディ (Hajar Pamadhi) との1996年8月16日の面談・調査による。
- 21 国際協力事業団インドネシア事務所 「インドネシア共和国セクター別・基礎資料 (第四巻)」1994 p.42

付 記

本稿の作成にあたり、1、3を福田、2を佐々木が担当し、全体を福田がまとめた。また、インドネシア語に関しては広島大学教育学部留学生Urip Zaenal Fanani氏から多大なご教示を受けた。ここにあらためて感謝の意を表します。